

令和 7 年 2 月 14 日
9 時 30 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番

氏名 永見 利久

答弁を求める者

(○をつける)

会委員長

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員

発言項目及び要旨

1、中山間地域の課題解決・人口減少と定住について

平成の大合併から 20 年が経過し人口減少は進み、周辺地域・中山間地域の中には、高齢化率が 88.89%以上で平均年齢 75 歳以上、世帯数が 10 世帯程度の集落もあり、集落機能の維持が難しい集落もある。また、生活に必要な個人商店施設の閉店、ガソリンスタンドの減少、診療所の閉所など、周辺地域・中山間地域の抱える課題は多い。これに関連した質問をする。

- ① 周辺地域・中山間地域での生活を営むための施設の減少について市の見解を伺う。
- ② 全国の各自治体も、人口減少対策は大変重要な問題と捉え、いろいろと取り組まれている。昨年の 12 月議会で人口減少と定住について質問致した。その時点での人口は 50,000 人を少し割り込んだ状況だったが、今年 2 月時点での人口は、48,485 人まで減少している。前回の質問の答弁では、人口減少対策として「若者支援ファンド事業」「若者が暮らしたいまちづくり」を通じた対策に取り組んでいると伺っている。この様に人口減少が進んでいる状況について市の見解を伺う。
- ③ 若者の移住・定住人口の創出についても質問した。答弁では、結婚に際しての経済支援、「特定地域づくり事業」による若手音楽家の移住と定着の支援、「地域おこし協力隊」制度を活用しての移住促進、空き家バンク登録物件の改修費の補助など、若者移住促進などの取組について伺っている。現況と成果について見解を伺う。

2、中山間地域の農地集約化・有機米について

農家の高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増え、雑草が茂っている状況で復田するには大変な労力と期間が必要と思う。昨年の夏、コメ不足の状況が全国各地で起きた。全国の耕作面積の減少や、農家の高齢化等なども、コメ不足の要因ではないかと思われる。これに関連した質問をする。

- ① 島根県の農地の多くは中山間地域にあり、山あいには点在している。圃場整備は行われているが、山裾の小さな水田もあり経営的に不利な農地がある。中山間地域の農地集約の現状について伺う。
- ② コメを生産している個人農家の高齢化、後継者のいる個人農家、各種法人等の現状を伺う。
- ③ 中山間地域コメ生産者の高齢化や後継者不足での耕作放棄地や離農が増加する。中山間地域の農家と農地の維持や、コメ生産の効率化の対策について市の考えを伺う。
- ④ 浜田市の有機米生産量の状況について伺う。
- ⑤ 有機米の流通の状況について伺う。

3 有害鳥獣対策について

有害鳥獣対策について、今まで、イノシシ被害、クマの出没・クマに襲われた事案など質問している。今回は、クマ、ニホンジカによる被害の状況、市としての対策について質問する。

- ① 島根県下では昨年の10月の段階でクマの目撃件数は例年の2～2.7倍で過去最多を更新する情勢であるとの報道もあった。10月末に、浜田市内で散歩中にクマに襲われた被害、1月には市内商業施設近くにクマが出没している。また、東北では、積雪がある中、クマの出没などの被害も報道されている。クマの出没状況と被害について伺う。
- ② 繁殖力の高いニホンジカは全国的に個体数が増加しているとの報道もある。被害状況は、地域によって異なるが、野菜・水稻への被害などが年々増加している。また、山林では樹皮の被害や下草などに対しての食害を受ける恐れや、雨による斜面の崩壊などの被害にも繋がるとと思われる。浜田市におけるニホンジカ生息状況についてどの様に把握されているのか伺う。
- ③ 近隣の邑南町・北広島町では、シカに対する防護柵を設置され被害防止に取り組まれている。金城地域で何度もシカの目撃情報があり、野菜への被害や水稻への被害もある。市のシカ対策について伺う。
- ④ 近隣の自治体では防護柵対策に取り組まれている。浜田市として、ニホンジカ対策の防護柵等の支援についての考えを伺う。

発言No. 16

受付No. 10

令和 7年 2月 14日
10時 7分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 20 番 氏名 西田清久

答弁を求める者 ☐市長 ☐教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 三桜酒造跡地の活用について

- ① 市長の施政方針の中で、三桜酒造跡地の活用については、1つに石見神楽の保存・伝承と郷土資料館の複合施設、2つに（仮称）神楽ホール、3つに屋外の交流広場の3つの機能を有する施設を整備すると発表されたが、1年前の考え方と大きく変わった点について問う。
- ② 三桜酒造跡地公共活用検討委員会からの「民間活力を生かす手法を検討すべき」との意見についてどの程度の検討がなされたのか問う。
- ③ 施政方針通りに整備された場合の未来像をどのように描いておられるのか問う。
- ④ 事業費は、極力市外に持ち出さず、地域内経済を優先させる考えについて問う。
- ⑤ ストーリー性を持った施設の姿について考えがあるのか問う。

2 石見神楽による地域振興について

- ① 大阪・関西万博で石見神楽が上演されることは絶好のチャンスと捉えるが、その後の石見神楽による観光振興、地域振興の具体策について所見を問う。

3 まちづくり振興基金（中山間地域振興枠）について

- ① 令和3年度から始まった5カ年で10億円という中山間地域振興枠の基金事業が令和7年度で終了するが、8年度以降の考え方について問う。

4 市民による事業提案制度について

- ① 総務文教委員会で東京都豊島区に行政視察を行い、区民による事業提案制度を研修した。区民から寄せられた多くの具体的事業を選定委員によって絞りこみ、1事業最大1000万円、10事業までの予算設定をしている。

この事業提案制度は、浜田市のまちづくりにおいてもより効果的のように思うが、市長の所見を問う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 1 番

氏名 肥後 孝俊

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

1 中学校部活動地域移行について

近年、全国的に注目を集めている中学校部活動の地域移行。浜田市においても、この重要な改革に向けた議論を深める必要があるのではないか。教員の長時間労働が社会問題化する中、部活動指導はその大きな要因の一つとなっている。特に、少子化が進む浜田市では、部員不足や指導者不足などの課題を抱えながら、教員が限られた時間で部活動指導に尽力している現状がある。しかし、部活動は生徒にとって、スポーツに親しみ、体力向上や人間形成を促す貴重な場であることも事実である。そこで、地域移行によって教員の負担を軽減しつつ、生徒のスポーツに打ち込む機会を確保し、地域全体のスポーツ振興につなげることが期待されている。これらを踏まえ、以下質問する。

- ① 部活動地域移行の必要性について伺う。
- ② 部活動地域移行によるメリットについて伺う。
- ③ 部活動地域移行における教育委員会の役割について伺う。
- ④ 本市の実情に合わせた部活動地域移行の具体策について伺う。
- ⑤ 部活動地域移行における支援策について伺う。
- ⑥ 部活動地域移行の開始時期について伺う。

2 住宅密集地における地震火災対策について

地震による火災のリスクを低減し、住民の安全を守るためには、感震ブレーカーの設置が重要である。特に、住宅密集地では、火災が発生すると延焼しやすく、被害が拡大する可能性が高いため、早急な対策が必要である。感震ブレーカーは、地震の揺れを感知して自動的に電気を遮断することで、電気火災の発生を抑制し、避難時間の確保や不在時の安全確保にも役立つ。行政は、地域住民の防災意識の向上を図り、感震ブレーカー設置を促進することで、災害に強い地域社会づくりを目指す上で一つの有効な手段と考える。これらを踏まえ、以下質問する。

- ① 住宅密集地での予測される災害について伺う。
- ② 感震ブレーカー設置に向けた啓発について伺う。

3 カーボンニュートラル実現に向けた施策について

本市におけるカーボンニュートラル実現に向けた施策は、地球温暖化対策として重要なだけでなく、市民生活の向上、地域経済の活性化にも大きく貢献する可能性を秘めている。そのためには、議会と行政が共通認識を持ち、協力して課題解決に取り組むことが重要である。また、市民への情報公開や意見交換の場を設けることで、市民参加を促進し、地域全体でカーボンニュートラルを目指していくことが大切である。さらに、長期的な視点に立ち、持続可能な社会の実現に向けた施策を推進していく必要がある。将来世代に負担を押し付けることなく、環境と経済が調和した社会を構築していくことが、浜田市の未来にとって重要である。これらを踏まえ、以下質問する。

(1) エネファームの導入について

- ① エネファームとはどのようなものか伺う。
- ② エネファームの導入によるCO2削減効果について伺う。
- ③ エネファームの導入による経済効果について伺う。

(2) CO2 フリー電力の導入について

- ① CO2 フリー電力の公共施設への導入によるCO2削減効果について伺う。
- ② CO2 フリー電力の公共施設への導入時期について伺う。

(3) 市民参加による取組について

- ① 4R (Reduce、 Reuse、 Recycle、 Refuse) 運動の具体的な取組内容について伺う。
- ② 市民参加によるカーボンニュートラル推進の取組について伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 8 番

氏名 川上 幾雄

答弁を求める者

(○をつける)

市長 ○教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

先般配布された令和7年度施政方針・教育方針では、教育環境の整備について「子供たちに安全で安心な環境で学んでもらうため、引き続き学校施設の整備に力を入れてまいります。」「学校施設の整備については、老朽化した施設の改修を集中的に行い、子どもたちが安全かつ安心して学べる教育環境の改善に取り組めます。」と述べられています。

このような方針ではありますが、現状をどのように捉え、どのように取り組んでいくのかを教育費を絡め質問してまいります。

1 学校施設について

(1) 学校施設の老朽化について

- ① 老朽化に対する調査状況を問う
- ② 老朽化対応への予算措置を問う

(2) 学校施設の不安全箇所について

- ① 不安全箇所に対する調査状況を問う
- ② 不安全箇所への予算措置を問う

2 教育費について

(1) 教育費の現状について

- ① 現状の歳出総額における教育費について、どのように捉えているか問う
- ② 現状の教育費における施設整備への対応について、どのように捉えているか問う

(2) 他自治体との比較について

- ① 類似団体と比較して、どのように捉えているか問う
- ② 県内他市と比較して、どのように捉えているか問う